

【ユニット】 地域医療とチーム医療

【ユニットディレクター】

UD：柴崎 智美（社会医学）

UD 補佐：米岡 裕美（教養教育） 金田 光平（医学教育センター）

【一般的な目標】

医師は病気の治療や予防のために診療や保健指導などを行い、ひとの生命・生活・人生に深くかかわる職業である。また、医師は医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与もって国民の健康な生活を確保する（医師法第1条）という社会的責任がある。少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む。

【具体的な目標】

1年生の「地域医療とチーム医療」ユニットでは「生老病死障害」、「コミュニケーション」及び「ケアシ・ケアされる自分」など、ヒューマンケアについて学んだ。2年生では患者を含む地域で生活する人々のQOL（Quality of life）の向上のために3つのLife（生命、生活、人生）を支えるひと、地域、社会の仕組みについて臨床入門ユニットにおける体験と併せて自ら考え振り返ることができるようになることを目指している。また、医師の法的な責務、医療経済、医療政策などの知識の習得と、それらを踏まえた地域で他の専門職を含む様々なひとと連携するために必要な技能と態度を身につける。

1. わが国の医療政策の現状を知り将来を予測することができる。
2. 要介護高齢者の暮らしを支える仕組みについて説明できる。★
3. 認知症高齢者への対応方法について説明できる。★
4. 地域医療における総合診療・プライマリケアの意義を説明できる。★
5. 医療関係法規に位置づけられた医師の責務について説明できる。
6. 医療における経済的側面の特徴を説明できる。★
7. 地域で専門職が連携するために身につけておくべきことについて説明できる。★
8. 地域で医師が連携する他の職種を列挙し役割と自分の専門の特徴について説明できる。★
9. 病める人々の心と身体の痛みと価値観を理解するために必要な態度、価値観を身につける。
10. チームメンバーと目標を共有するために、話し合うことができる。★
11. チーム(グループ)活動を振り返ることができる。★

【学習方法】

このユニットでは、学内外の実践者を講師として迎え、医師としての基本的な考え方や知識を学ぶだけでなく、様々な学習場面での知識や考え方を問う内容を扱う。遠隔の形態であっても、その時間に参加し、講義を時間通りに受講することを基本とする。受講時には、主体的に参加し、当事者の声や具体的な事例について、ひとりひとりの学生が自分の頭で対象とするLife（生命、生活、人生）を想像し、考え、自分なりに理解することを求める。

講義の事前学習や講義中または講義終了後の理解度を確認するためにWebClassを用いることがあるので、講義の日にはWebClassにアクセスできるようPCやipad、iphoneなどを持参しておくこと。

また、臨床入門、臨床推論、行動科学と医療倫理といった良医への道コースの他ユニットでの体験や学びとともに、本ユニットでの学びを統合し、理解するよう努めて欲しい。

1. 多様な個人の意見を聴く、意見交換することを目的としてグループワークを行う。
2. 講義に参加し、自らメモやノートをとる。
3. 講義中に紹介された書籍等に目を通す。

4. 医師になる上で必須の知識（法律や術語）は理解し覚える。

【評価方法】

本ユニットは良医になることを目指して、授業に参加し、課題に取り組むことを求めている。そのため、医師を目指す医学生としてふさわしくない態度、行動があった場合には、評価の対象とせず、不合格とする。

本ユニットは演習ユニットのため、75%以上の出席を求める。やむを得ない理由以外で出席不良の場合には、評価の対象とならないので、十分注意すること。学年末の定期試験期間中に試験を行う。ユニットの評価は、定期試験の結果と講義内で行われるグループワークの参加態度やレポートの提出状況、提出内容を総合的に評価する。必要がある場合のみ再試験を1回行う。マイルストーン評価は、該当する講義の出席要件の小課題あるいは定期試験で評価を行う。マイルストーン評価で不合格の場合には、補習を行い再評価を行う。

【教科書】

- ◆ 国試・改定コアカリ対応 地域医療学入門（診断と治療社）初版 2019年 診断と治療社

【参考書】

- ◆ 保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム 2019年 ミネルヴァ書房
- ◆ IPWを学ぶー利用者中心の保健医療福祉連携ー 埼玉県立大学編 2009年4月15日発行 中央法規出版
- ◆ 美しい死 森巨著

【授業予定表】

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
地域01	04月20日	(水)	6	高齢者を支える仕組み1	柴崎 (医学教育学)
地域02	05月12日	(木)	3	「病を治す」ということ	江利川 (医療政策学)
地域03	05月18日	(水)	6	高齢者を支える仕組み2	柴崎 (医学教育学)
地域04	05月27日	(金)	3	家庭医療と総合診療	加藤(寿) (医学教育C)
地域05	07月06日	(水)	4	地域医療ビジョン	宮山 (医療政策学)
地域06	07月06日	(水)	5	地域の健康危機管理	宮山 (医療政策学)
地域07	10月17日	(月)	4	医療と法(医師の責務)	大平 (国七神経脳卒中内科)
地域08	10月17日	(月)	5	医療と法(法の仕組み)	大平 (国七神経脳卒中内科)
地域09	12月01日	(木)	2~3	地域基盤型IPW論1	米岡 (教養教育) 柴崎 (医学教育学) 金田 (医学教育C) 高橋 (地域医学推進C)
地域10	12月07日	(水)	2	医療と経済1 (経済の捉え方)	山内 (慶應義塾大学)
地域11	12月07日	(水)	3	医療と経済2 (マクロ的視点からみた医療経済)	山内 (慶應義塾大学)
地域12	12月08日	(木)	2~3	地域基盤型IPW論2	米岡 (教養教育) 柴崎 (医学教育学) 金田 (医学教育C) 高橋 (地域医学推進C)

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
地域13	12月09日	(金)	4	地域の中での医療福祉介護	加藤(寿) (医学教育C)
地域14	01月11日	(水)	4	高齢者を支える仕組み3	荒船 (医学教育C) 柴崎 (医学教育学)
地域15	01月11日	(水)	5	公衆衛生と予防医学	柴崎 (医学教育学)

【備考】

本ユニットの一部は彩の国連携力育成プロジェクトによる彩の国連携科目「IPW論」に該当する。具体的な目標の★印はマイルストーンに該当する目標である。本ユニット終了までにマイルストーンが達成できるようにマイルストーンを意識しながら講義を受講すること。

【ユニット】

地域医療とチーム医療

【ユニットディレクター】

柴崎 智美（医学教育学）

【コンピテンス】

2. 基盤となる医学知識と問題対応能力
4. 自ら学ぶ姿勢
7. チーム医療
9. 地域および国際社会の医療

【マイルストーン】

- 2-(5). 介護や認知症など高齢者をとりまく社会的側面について概説できる。
- 4-(3). グループで行う活動を振り返り、グループの状況や課題を説明できる。
- 7-(2). 保健医療福祉介護の現場で働く様々な専門職の専門性を理解し、自分の専門の特徴について表現することができる
- 7-(3). チームメンバーと目標を共有するために、話し合うことができる。
- 9-(1). 認知症を含む高齢者の暮らしを支えるための地域医療の課題と総合診療・プライマリケアの意義を概説できる
- 9-(2). 医療経済、医療保健福祉介護制度、保健医療機関の役割を概説できる。

【評価方法】

- 2-(5). 筆記試験
- 4-(3). 筆記試験（振り返り）
- 7-(2). 筆記試験
- 7-(3). IPW 論の SGD のピア評価、教員による成果物の評価と演習中の態度の観察評価
- 9-(1). 筆記試験
- 9-(2). 筆記試験

【補習および再評価の方法】

- 2-(5). 再試験
- 4-(3). 再試験
- 7-(2). 再試験
- 7-(3). レポート
- 9-(1). 再試験
- 9-(2). 再試験